

だっこするよ

2024年3月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

相互理解から生まれる人間力

三寒四温を繰り返して春がやってきました。どんどんさん達が植えた玄関のチューリップ、どんな色に咲くのか楽しみです。乳児組は保護者懇談会、幼児組では、個人面談にご参加いただき有難うございました。ご家庭と共に子ども達にとって最善の保育環境…ヒト、モノ、コトとなるよう日々の保育を行って参ります。

三月、一年を共に暮らした子ども達は、一つの大きな家族のように安心して過ごしています。四月には、新たな世界へ進級や卒園、入学を迎えます。

乳児組では、生活や遊びの中で、「ジブンデ」「ジブンデ」とどの子も自己発揮を。また、言葉でのやり取りや理解力も増えて「貸して～」「まだよ～」「あとで～」と体で示す子、言葉で言える子、ルールを理解していて驚きます。2歳さんは、時間を少しずつ伸ばして、異年齢交流を行っていて、午睡までの流れもとても落ち着いていて担任達が驚いています。背中のリュックもカッコいいです。乳児期で生活の基盤が出来ている証拠ですね。

幼児組では、同学年保育から、異年齢保育へと移行し、様々な体験を通して、心も体も大きく成長しました。3歳違いの子どもたちは、互いの欲求をぶつけ合いながら、遊び、生活して、泣いて笑って、きょうだいのように育ち合いました。感情豊かな人間同士、様々なトラブルは、当たり前…少しずつ自分達で話し合い、解決できるようになりました。年下児は、年長児の行動や言葉かけを真似して、少し

難しいことにも挑戦する様子が増えて、年長児は、それを手助けすることで自信となり、「みんな違ってみんないい」の言葉通り、異年齢保育への選択は、間違っていなかったと感じました。心が通じ合う喜びは、他者への信頼となり、また、自己への信頼にもつながったのではないのでしょうか。

「初めは異年齢保育に不安に思っていたけど、年下の子から慕われて、嬉しそうに応えている姿を見て、本当に、異年齢保育っていいなと思った。」と嬉しい言葉をいただきました。育つ環境で、ポテンシャルを発揮する子ども達、異年齢保育は、同一年齢でないことで、優劣がなく、一人一人の存在自体を尊重する保育です。年長児が自然と生活のモデルとなり、やって見せて、言葉で伝えて、教えてくれます。誰かに憧れられて、頼りにされて、互いにありのままでもいいんだよ～と多様性を受けとめています。相互理解の大切さを体験したどんどんさん達、学校社会でも、友達と協力して自分らしく楽しんで欲しいです。

2023年4月、こども家庭庁が創設され、こども基本法も施行されました。「こどもまんなか社会」の実現に向けて、子どもの声に耳を傾けて、その子の意志や意見を尊重することの重要性が広く社会に示されました。また、保育所保育指針第1章総則の基本原則の保育の方法には、「ア、一人一人の子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受けとめること」と書かれています。自分で考え、決めて、行動することを保障する保育を目指します。

大人主導で慣習化された保育から、保育士の働き方も含めて新しい保育へと進めていきます。皆様からの声を伺い、対話を大切にして進めます。

先日、赤羽台西小学校1年生との交流会がありました。成長した卒園生達に出会えた喜びとどんどんさん達が積極的に関わりをもって行動する姿に成長を感じました。23日の卒園式に向けて歌の練習も始まりました。最後の手仕事活動で雑巾縫いをしています。その日、縫いたい子が集まってきます。一針、一針と縫いながらの何気ないおっしゃべりが楽しくて、ここで出会えて本当に良かったとつくづく思う毎日です。社会の宝であり、私たちの未来や希望となる41名が、大海原へ出航する日は、もう直ぐです。遊びにおいでね。写真は、これから小学校探検だ！！